



PROFILE

すぎむら ひでとし
杉村 英俊 さん(52歳)
愛西市四会町



お子さんが安心して
食べられる品質を

杉村さんは就農して今年で32年目を迎え、現在は75アールの面積でミニトマト(品種：TY千果)を栽培しています。また、ミニトマト農家の生産者組織である、よつえ生産部会の部長も務めています。

杉村さんが生産で特に気を配っているのが品質管理です。「品質のバラツキによって、買ってくださるお客様に当たり外れが出てしまわないように」と、一年を通じて安定した品質で出荷することを心がけています。「そのために重要なのは環境づくりです。ハウス内の温度や湿度、肥料のバランスを見ながら最適な環境を整え、味も見た目も高品質なミニトマトを栽培することにこだわっています」と杉村さんは話します。

また、減農薬栽培にも取り組んでいます。その一つとして病害虫対策で、虫を光で誘引して捕獲する専用機器をハウス内に設置しています。「ミニトマトはサラダなど生でそのまま食べることも多く、お弁当の食材としてお子さんが召し上がる機会も少なくない食材だと思います。だからこそ安心して食べていただけるように、出来る限り薬に頼らない栽培方法で品質の安全性を高め続けたいと考えています」と食の安全・安心への思いを語ってくださいました。

ミニトマトの魅力について杉村さんは「栄養価が高く、幅広い料理に使用できる健康的な野菜だと思っています。また、食卓の彩りにもなりますし、トマトの苦手なお子さんでも食べやすいことも大きな魅力の一つだと感じています」と話します。

ミニトマト市場は、他県で新規参入が相次いだことで、需要に対して供給過多の状態が続いており、現在は不安定な価格で推移しています。そのような中、今後について杉村さんは「規模拡大も視野には入っていますが、市場価格が安定するまでは今の面積の中で、どれだけ内容の濃い農業を行うかが現在の課題だと考えています。また、後継者として息子がもし跡を継いでくれたら、将来しっかりと経営をバトンタッチできるような環境も整えていきたいです」と抱負を語ります。

最後に消費者の方に向けて、「コロナ禍で大変な状況が続いていますが、自分の育てたミニトマトで少しでも元気になつてもらえれば、という気持ちで栽培しています。ぜひ、心を込めて育てた安全安心なよつえのミニトマトを食べていただきたいです」と笑顔でメッセージをいただきました。

旬桃輝(しゅんとき)

よつえ生産部会から出荷されているミニトマトは、旬桃輝(しゅんとき)という商品名で販売されています。糖度と酸味のバランスが良く、トマトの苦手なお子さんでも食べやすいのが特長です。旬桃輝という名前は、当時の生産者の方々のお子さんのお名前から一文字ずつ組み合わせただけだそうです。

